

# 2025 年度事業報告書

(2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日)

2026 年 6 月 10 日

公益財団法人 ダイヤ高齢社会研究財団

## 【公益目的事業 1】

高齢社会における健康問題、経済問題、生きがいに関する調査、研究及びこれらに関する国際交流活動、並びにその成果を活かしたシステム等の開発とそれに関連するサービス等の事業

### 1. 本財団主管研究

本財団が主管する研究 7 件に取り組んだ。なお、それぞれの調査・研究については、論文、学会発表及び報告書等において、その成果を発表した。

### 介護政策・介護事業に関する研究

#### 1) 科学的介護情報システムの質の評価手法に関する研究（2024-2026 年度）

政府は、利用者の心身状態を介護サービス機関から定期的に収集し、介護の質を定量的に評価する「科学的介護情報システム（通称：LIFE）」を 2021 年に始動した。LIFE は、日常生活動作能力（ADL）等が改善した利用者等の割合をアウトカム指標としているが、評価に際して利用者の状態像の違いを補正する仕組みがなく、サービス機関が報酬加算の獲得に有利な軽症者やリハビリ意欲の高い人を選別する現象を誘発する可能性がある。

本事業では、同一利用者における「LIFE への提出データ（LIFE データ）」とより詳細な情報を持つ「インターライ方式のアセスメントデータ（インターライデータ）」を経時的に収集し、ADL 等の改善に関連の高い情報項目を析出し、今後 LIFE のアウトカム評価に導入すべき補正項目とそのアルゴリズム（計算手順）を明らかにする。

2025 年度は、介護 QI 参加法人のうち 2 法人から、引き続き LIFE データとインターライデータの同時提供を受け、最終的に LIFE データ 3581 件（1,854 名分）およびインターライデータ 5443 件（1,985 名分）のデータベースを構築することができた。また、介護 QI 参加法人に対し、年 2 回の報告書でのフィードバックも行った。社会への研究成果の発信としては、国内学会にて 3 件の発表を行い、LIFE 事業関係者と意見交換を行った。

#### 2) 高齢者福祉施設職員の防災・減災意識の向上に関する研究（2025-2026 年度）

高齢者福祉施設における「非常災害対策計画」の作成が義務化され、施設の防災力強化は喫緊の社会的課題となっている。本研究では、防災力を可視化する手段として職員の防災意識に着目し、その実態把握と向上を目的に、意識の高低に影響を及ぼす要因の解明に取り組んでいる。

2025年度は前年同様、都内30施設を対象とした調査を継続した（調査体制の再構築のため、都内での悉皆調査や他県への対象拡大は、2026年度に改めて実施）。当年度は調査項目を見直し、より実態に即した精緻な分析を試みた。その結果、従来指摘してきた「防災訓練への参加」に加え、新たに「安全に関する組織風土」や「DWAT（災害派遣福祉チーム：Disaster Welfare Assistance Team）への派遣実績」が防災意識と有意に関連していることを見出した。一方で、回答者の防災訓練参加率は前年度同様に6割弱に留まっており、施設間での実施回数の格差も大きい。今後は、訓練への参加率向上を図るとともに、職員の防災意識が高い施設における訓練の実施状況をモデルとして提示し、各施設が目指すべき指針を明示していく。

社会への研究成果の発信では、国内学会でのポスター発表2件と第10回防災推進国民大会（主催：内閣府）でのポスター発表を行った。

### 3) 高齢者施設における看取りケア支援プログラムに関する研究（2024-2026年度）

独居高齢者の増加や家族介護力の低下を背景に高齢者施設での死亡数はさらに拡大すると予測されている。国も高齢者施設での看取りへの報酬加算を設けるなどその推進を図っているが、看取りに対する体系的な対応は手探りの状態で、現場のニーズに合う看取りケア支援プログラムはほとんどない。

本事業では、看取りケア（緩和ケア）の対象となる人々のニーズ、強み、本人の選択を評価するアセスメントツールとして国際機関が開発した「interRAI Palliative Care（以下インターライ PC）」を国内の高齢者施設で活用するための看取り支援プログラムを考案し、入居者および職員それぞれへの有効性を評価する。

2025年度は、地域の医療福祉関係者向けの講演会にて、インターライ PC の紹介を行い、事例を用いたアセスメントを実施し、グループワークを行った。また、アセスメント表は紙媒体だけでなく Web 入力の希望が多かったことから、Web 入力からケア課題である CAP が表示される簡易な仕組みを作成し、看護系学会の交流集会で紹介した。また、高齢者施設での看取りの現状を探るため、既存のインターライデータを分析し国内学会で発表した。今後は、本格的なアセスメントシステムの開発と、施設等での調査の準備を行っていく。

## 高齢者の社会参加・就労に関する研究

### 4) シルバー人材センターにおける安全就業対策の充実度評価および事故防止効果に関する共同研究事業（2023-2025年度）

シルバー人材センターは、就業中の事故撲滅に向けて多様な対策を展開しているが、個々の安全就業対策が事故の発生防止にどの程度効果があるかは明らかになっていない。

これらの事故防止効果の科学的な検証に向けては、各センターの安全対策の実施状況を客観的かつ継続的に把握するデータ収集のための基盤整備から始めなければならない。

本事業では、東京都シルバー人材センター連合（東京都 SC 連合）と共同で、まず同連合が安全巡回指導のために都内 58 センターから収集・蓄積した資料を定量化可能なデータに変換し、安全対策の実施状況を可視化する基盤を構築する。次に、基盤を通じて経年的に蓄積された「安全対策実施状況データ」に既存の「保険認定事故(傷害・賠償責任)データ」を統合して解析を行い、各種の安全対策の事故防止効果を検証する。

2025 年度は、2024 年度の追加データをデータベースに統合した上で、全センターに分析レポートを作成した。また、東京都 SC 連合主催の令和 7 年度シルバー人材センター安全大会において「事故防止効果の“見える化”と効果検証への取組みⅢ」を講演し、研究成果を広くフィードバックした。

## 5) 生きがい就業の介護予防効果に関する研究（2024-2026 年度）

高齢期の就業が健康維持に与える影響は、ポジティブとネガティブの両側面の研究報告があり、その評価は定まっていない。一方、我が国では 70 歳以降も生きがいを目的として働く高齢者が少なくなく、社会的交流や適度な運動を通じた介護予防効果が期待されているが、国内での実証研究は限られている。

本事業では、全国の 75～84 歳の一般高齢者とシルバー人材センター会員を 2 年間追跡した全国シルバー人材センター事業協会からの受託研究事業（2021-2024 年度）データを活用して、生きがい就業の介護予防効果を明らかにする。

2025 年度は、まず要介護予備群とされる「フレイル(Frailty)状態」の発生率がシルバー会員の方が低いことを実証した原著論文が掲載され、全国のシルバー人材センターに広く展開された。また、シルバー会員は主観的健康観の悪化リスクも低いことを実証した英語論文も国際誌に掲載された。

## 中高年期のウェルビーイングに関する研究

### 6) 仕事と介護の両立支援に関する研究（2024-2027 年度）

要介護者の増加に伴い、働き盛りの労働者が家族の介護に追われ、生産性の低下や労働力の流出につながっていることが社会問題化している。国は、介護離職ゼロを掲げて仕事と介護の両立支援に向けた施策を推進しているが、介護休業の制度利用者はわずか 1 割と低調で、既存の支援策と介護者が求めるニーズとのミスマッチも指摘されている。

本事業では、「三菱グループ・リサーチモニター・プロジェクト」の調査データを活用し、家族等の介護に現在または将来的に直面する可能性のある労働者の支援ニーズを把握し、仕事と介護の両立に効果的な新たな支援策を明らかにする。目的別に、仕事と介護

の両立に関する潜在的なニーズを明らかにする全社員対象の調査、具体的な支援ニーズとその有効性評価を明らかにする介護中の労働者を追跡する調査の2つを展開する。

2025年度は、賛助会員企業18社の協力を得て実施した「仕事と介護の両立に関する調査(2024年度)」のデータ分析を行った。社会への研究成果の発信として、国内学会において一般演題5件と自主企画フォーラム1件を実施した。これらの成果を基に論文執筆を進め、国内外の学術誌への投稿を行っている。さらに、その結果を踏まえ、介護中または近い将来に介護を担う可能性のある労働者を対象とした追跡調査の設計および実施準備を行った。

## 7) 高齢者の Aging in place に寄与する住環境の研究 (2024-2026年度)

住環境アクセシビリティとは、「個人が目的の場所に到達したり、目的の物を使うことを住環境が促進/阻害する程度」と定義される。住環境アクセシビリティが確保できることにより、要介護高齢者の残存能力が最大化し主観的 Well-being の維持に寄与することが期待できるが、日本では評価指標が存在せず検討が進められていない。

本事業では、要介護高齢者の住環境アクセシビリティが主観的 Well-being に関連するプロセスの解明を目的とする。そのために、2017年から開発している住環境評価指標の妥当性・信頼性・実施可能性の検証、住環境アクセシビリティと主観的 Well-being との関連について調査研究を行う。

2025年度は、日本版住環境アクセシビリティ評価指標の実施可能性および信頼性についてフィールド調査を実施した。また、調査実施後には評価者との意見交換会を設け、次年度の調査に向けた評価指標の改善点の洗い出しを行った。また、高齢者の Aging in place に寄与する住環境の実態把握のため、各種データ(日本老年学的評価研究データ、医療・介護レセプト、東広島市救急搬送データ)の二次分析を進めた。社会への研究成果の発信は、国際学会4件、国内学会3件、国際誌1件の発表を行った。

## 2. 論文、学会発表

研究成果を以下の論文及び学会等において発表した。(下線は本財団職員、\*は客員研究員)

### (1) 論文

<原著論文>

- ・ 石橋智昭・森下久美\*・土屋瑠見子・上原桃美・渡辺修一郎\*。シルバー人材センター就労会員と地域高齢者における2年間のフレイル発生割合；全国50地点の75~84歳を対象としたコホート研究。日本健康医学会雑誌34巻4号, 436-443, 2025.

- Tsuchiya-Ito R, Mitsutake S, Teramoto C, Hamada S, Yoshie S, Tamiya N, Iijima K, Ishizaki T. Individual factors associated with out-of-hours outpatient visits for emergency medical care and readmissions within 90 days of discharge among older adults: a retrospective cohort study. *Geriatrics & Gerontology International* 25(6):789–798, 2025.
- Tsuchiya-Ito R, Morishita-Suzuki K\*, Nakamura-Uehara M, Watanabe S\*, Ishibashi T. Differences in the association between working status and self-rated health according to financial satisfaction among older adults aged ≥75 years: A cohort study of Silver Human Resources Centers in Japan. *Asia Pacific Journal of Public Health* (Epub ahead of print) <https://doi.org/10.1177/10105395261430808>.
- Sasaki Y, Taguchi R, Tsuchiya-Ito R, Kitamura S, Iwagami M, Sakata N, Arai I, Motoo Y, Hamada S. Prescription of ninjin' yoeito, a Japanese Kampo medicine, in relation to levels of long-term care needs or disabilities in older adults: A cross-sectional study. *JMA Journal* (Epub ahead of print).
- Hamada S, Tsuchiya-Ito R, Liao SJ, Hattori Y, Bell S, Sakata N. Frailty assessed using the FRAIL–NH scale and its associations with long-term care needs in residents of Japanese nursing homes: a multicenter cross-sectional study. *JMA Journal* DOI: 10.31662/jmaj.2025-0396.
- Kitamura S, Tsuchiya-Ito R, Taguchi R, Ishikawa T, Ota T, Hamada S. Assistive products for long-term care among older people with chronic obstructive pulmonary disease in Japan: A retrospective cohort study. *BMC Geriatr* 25, 621, 2025. <https://doi.org/10.1186/s12877-025-06303-y>
- Nishida K, Taguchi R, Tsuchiya-Ito R, Ishikawa T, Kitamura S, Iwagami M, Hattori S, Hamada S. Association of long-term care risk with nonresponse to the annual frailty screening program in older adults in Japan: A retrospective cohort study. *JMA Journal* 8(4):1184–1191.
- Taguchi R, Okada A, Tsuchiya-Ito R, Kitamura S, Ishikawa T, Hamada S. Continuity of visiting pharmacist services and factors related to service discontinuation among older adults in Japan: a retrospective cohort study. *Pharmacology Research & Perspectives* <https://bpspubs.onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1002/prp2.70152>.

## (2) 学会発表

- ① 日本老年社会科学会第 67 回大会 (2025.6 千葉県)
  - 石橋智昭・塚本成美\*・渡辺修一郎\*・松田文子\*・森下久美\*・土屋瑠見子・上原桃美「シルバー人材センター会員と地域高齢者におけるフレイル発生率の比較: 全国 52 地点の 75~84 歳を対象とした 2 年間の追跡調査から」
  - 土屋瑠見子・北村智美・田口怜奈・服部真治・浜田将太「介護保険制度における住

宅改修サービスの利用と要介護度悪化の抑制—後ろ向きコホート研究—

- ・ 上原桃美・中村正人\*「特別養護老人ホーム職員の防災訓練への参加と防災意識との関連：都内 28 施設への調査から」
  - ・ 安順姫・佐々木晶世・石橋智昭「企業労働者における親の健康に対する不安と精神的健康との関連」
  - ・ 森下久美\*・渡辺修一郎\*・石橋智昭・吉川悠貴・阿部哲也・長田久雄・加藤伸司「シルバー人材センターにおける認知症フレンドリー体制の類型化：全国悉皆横断データを用いた検討」
  - ・ 石橋智昭. 自主企画フォーラム「Sustainable で Creative な高齢者就労～働く高齢者が提供する社会的価値～」の座長および話題提供者を担当
  - ・ 安順姫. 自主企画フォーラム「仕事と介護の両立～プレ介護期からの企業の関わり～」の座長を担当
- ② 第 67 回日本老年医学会学術集会 (2025.6 千葉県)
- ・ 土屋瑠見子・佐々木晶世・宇田和晃・石橋智昭「介護老人福祉施設入所者における日常生活動作能力改善の予測性能比較：科学的介護情報システムを想定した検討」
- ③ 日本老年看護学会第 30 回学術大会 (2025.6 千葉県)
- ・ 佐々木晶世・土屋瑠見子・石橋智昭「高齢者施設利用者の看取り期のケアニーズ インターライ方式によるアセスメントデータによる分析」
- ④ 日本ケアマネジメント学会第 24 回研究大会 (2025.6 千葉県)
- ・ 石橋智昭・土屋瑠見子・佐々木晶世「ICF の「参加 (participation)」領域を評価する質指標の検討～心身機能・活動領域の指標との比較を通じて～」
  - ・ 安順姫・佐々木晶世・石橋智昭「企業における労働者の介護の状況：仕事と介護の両立に関する実態調査」
- ⑤ 第 38 回日本保健福祉学会学術集会 (2025.9 新潟市)
- ・ 安順姫・佐々木晶世・石橋智昭・土屋瑠見子・上原桃美「介護が不要な親への生活支援における労働者の負担感：職場環境との関連」
- ⑥ 第 84 回日本公衆衛生学会総会 (2025.10 静岡県)
- ・ 石橋智昭・上原桃美・渡辺修一郎\*・森下久美\*・土屋瑠見子「75～84 歳のシルバー人材センター会員の健康度と働き方①～フレイル水準別の就業状況および疲労感との関連～」
  - ・ 佐々木晶世・安順姫・石橋智昭「仕事と介護の両立に関する調査【第 2 報】介護経験者からみた両立を促進・阻害する職場環境要因」
  - ・ 土屋瑠見子・上野恵子・寺本千恵「在宅高齢者における救急要請事案の発生場所と救急隊の現場滞在時間との関連」
  - ・ 上原桃美・石橋智昭・渡辺修一郎\*・森下久美\*・土屋瑠見子「75～84 歳のシルバー人材センター会員の健康度と働き方②～就業状況が新規フレイル発生に及ぼす影響～」

- ・ 安順姫・佐々木晶世・石橋智昭「仕事と介護の両立に関する調査【第1報】介護の前段階における親への生活支援の実態」
- ・ 渡辺修一郎\*・石橋智昭・上原桃美・塚本成美\*・松田文子\*・森下久美\*・土屋瑠見子「シルバー人材センターへの入会理由と主観的幸福度との関連」
- ⑦ 第58回日本薬剤師会学術大会（2025.10 京都府）
  - ・ 田口怜奈・岡田啓・土屋瑠見子・北村智美・石川智基・杉本友里・堀田亜莉沙・浜田将太「要支援・要介護高齢者に対する保険薬局薬剤師の在宅訪問継続実態とその中断に関連する要因：医療・介護連結データ分析」
- ⑧ 第20回日本応用老年学会大会（2025.11 宮城県）
  - ・ 土屋瑠見子・太田智之・鈴木洋介・木下輝・楠本直紀・永井美寿々・田島美紀「転倒リスク評価指標 The Home Falls and Accidents Screening Tool (HOME FAST)日本語版の妥当性の検証」
  - ・ 上原桃美・中村正人\*「特別養護老人ホームにおける外国人職員の災害時の施設参集を妨げる理由」
  - ・ 島田今日子・安順姫・鈴木剛・村井祐一「地域在住の孤立した高齢夫婦の生活実態」
  - ・ 野藤悠・阿部巧・藤田幸司・相良友哉・石橋智昭・森下久美\*・大須賀洋祐・渡辺修一郎\*・野中久美子・横山友里・村山洋史・藤原佳典（本財団評議員）「シルバー人材センター会員における就労働機の類型化とフレイルとの関連」
- ⑨ 第34回日本健康医学会総会（2025.11 山口県）
  - ・ 佐々木晶世・土屋瑠見子・石橋智昭「科学的介護情報システム(LIFE)のフィードバックにおけるインターライ方式の介護の質指標(QI)の活用」
- ⑩ GSA 2025 Annual Scientific Meeting（2025.11 アメリカ合衆国）
  - ・ Tsuchiya-Ito R, Kitamura S, Taguchi R, Hamada S「Annual Medical and Long-Term Care Expenditures Three Years After Home Adaptations for Older Adults With Care Needs」
  - ・ Kitamura S, Ota T, Tsuchiya-Ito R「Characteristics of Housing Adaptation Recipients Under Japan's Long-Term Care Insurance: A Cluster Analysis」
  - ・ Taguchi R, Okada A, Tsuchiya-Ito R, Kitamura S, Ishikawa T, Hamada S「Continuity of Visiting Pharmacist Services for Older Adults With and Without Terminal Cancer in Japan」
- ⑪ 第45回日本看護科学学会（2025.12 新潟県）
  - ・ 佐々木晶世・二宮彩子\*・廣岡佳代\*・五十嵐歩\*・小野恵子\*・金田明子\* 交流集会「使ってみよう！高齢者施設や在宅で活用できる看取りケアのためのアセスメント」
- ⑫ WFOT congress 2026（2026.2 タイ）
  - ・ Ota T, Tsuchiya-Ito R, Iwarsson S, Slaug B「Consistency Reliability of Scoring Points of the Japanese Version of the Housing Enabler」
- ⑬ 日本臨床疫学会第8回年次学術大会（2026.2 東京）
  - ・ 田口怜奈・岡田啓・土屋瑠見子・北村智美・石川智基・浜田将太「薬局の年間訪問患者数による患者像・薬局特性・訪問導入前後の薬剤数変化の違い：医療・介護連

結データ解析」

⑭ The 29th EAFONS 2026 (2026.2 シンガポール)

- ・ Teramoto C, Tanabe K, Ueno K, Tsuchiya-Ito R, Imura H, Matsuyama R, Tsunematsu M, Nasu K, Sawatari H, Kazawa K, Kakehashi M 「Characteristics of emergency medical services non-conveyance cases in Japan」

(3) 書籍出版

当年度はなし。

(4) 寄稿等

◎ 石橋智昭

- ・ 『月刊シルバー人材センター』 ジェロントロジー入門講座⑤「働く高齢者の現状とセンターの魅力」(2025年11月号、p28-31)
- ・ 茨城県シルバー人材センター連合会会報『県シ連だより』令和8年1月号 特集「生きがい就業の介護予防効果について」
- ・ 町田市シルバー人材センター『設立45周年記念誌』 特別寄稿「ともに歩んだ20年間に感謝を込めて」

◎ 森義博

- ・ (一財)オレンジクロス広報誌『オレンジクロス』第20号 特別寄稿「超長寿時代を生きる」(2月)
- ・ (株)セールス手帖社保険FPS研究所「LA情報」コラム「ライフプランニングと暦」、「世論調査にみる生活の程度と今後の見通し」、「世論調査にみる働く理由」、「最新の人口動態統計とこれから」、「民間の死亡保障の存在意義」、「日本人女性は40年連続長寿世界一」、「ライフプランで想定する『寿命』とは」、「就労者にとっての介護— ①親の介護は身近、②親を介護するということ」、「『2000万円問題』の現在地と老後資金」、「在職老齢年金制度と60代の働き方」(4月～3月)
- ・ (株)セールス手帖社保険FPS研究所「注目のトピックス」コラム「『2026年問題』はあるか」、「将来か今か、心か物か」、「何のために働くか」、「最少の出生数、最低の出生率」、「遺族年金の“すき間”」、「寿命はこれからも延びるのか?」、「何歳まで生きるか」と考えるか」、「いつでも直面しうる親の介護」、「就労者にとっての介護」、「『2000万円問題』と高齢者世帯の保有資産」、「在職老齢年金の支給停止基準額引き上げ」(4月～3月)

## 【公益目的事業2】

高齢社会の諸問題に関する意識啓発および活動成果の普及ならびに高齢者の健康増進に繋がるインストラクターの育成

### 1. 啓発・普及事業

#### (1) シンポジウムの開催

2025年度シンポジウム「100歳までのライフプラン2—自分らしい人生のための福・禄・寿」を11月14日に開催。第一部として、伊藤宏一氏（千葉商科大学学長付教授、本財団理事）による基調講演「高齢者から長寿者へ—『福禄寿』経済の展望—」、第二部として、須原國男氏（スハラFPコンサルタント代表）による講演「高齢者の幸せと対応の仕方～経済的不安の解決に焦点」および第三部として、三菱グループ企業の人事担当者2名のパネリストを招いたパネルディスカッション「100歳までのライフプラン2」の三部構成。

パネルディスカッションでは、①長寿社会においては、健康寿命の延伸、多様な働き方、将来にわたる経済的な安定が不可欠であること ②企業は、長寿社会に対応した商品・サービスの開発、ESG経営（環境、社会、ガバナンスに配慮した経営）、従業員のキャリア支援などを通じて、社会全体の持続可能性に貢献することが求められること ③個人は、早期からの金融リテラシー向上、計画的なライフプランニング、自分が本当にやりたいことを見つけ自己変革していく力を身につけることが重要であることなどについて意見が交わされた。

会場とオンデマンド配信の併用とし、オンラインにより一般の参加希望者の申込みを受け付け。会場参加者は64名。オンデマンド配信は3月末まで実施し、視聴申込者は190名。

#### (2) 産学官民連携ネットワークの拡充

本財団の事業目的である「実践的な調査・研究活動を通じて、高齢社会における諸課題の解決に寄与」の実現に不可欠な研究成果の社会還元・社会実装を図るため、2024年度に財団プロジェクト担当を新設し、産学官民連携ネットワークの拡充に注力している。

当年度は、長年築いてきた人脈（親密企業・団体の代表者等を含む）を組織化した「ダイヤのきずな」のうちメーリングリスト会員129名（2026年3月末現在）宛に、シンポジウムの開催、シンポジウムの動画配信、『ダイヤニュース』・『ダイヤレポート』発行等について情報提供する一斉メール「ダイヤ財団からのお知らせ」を9回発信し

た。また、財団関係者名簿を同担当が一元管理することにより、情報更新の迅速性と正確性が保持されている。

### (3) 三菱グループ・リサーチモニター・プロジェクトの推進

調査研究を通じた三菱グループおよび社会への継続的な貢献を企図した、財団設立30周年記念事業の第3年度。

2023年度の各社ヒアリング結果を踏まえて調査テーマを「仕事と介護」に設定。2024年度に全社員を対象とした第1段階調査を実施し、18社27,443名から回答を得た。

当年度は第1段階調査に協力いただいた全社を訪問し、集計・分析結果を報告。さらに、第2段階調査の企画およびシステム構築を含む準備を実施。第2段階調査は、現在介護中または近い将来介護を担う可能性のある社員を対象に、アンケート調査を3か月間隔で2028年末まで継続的に実施することで、介護・支援と働き方の変化を企業の介護支援制度等とからめて分析する。実施準備を終え、2026年3月下旬から各社への協力依頼面談（訪問、オンライン）を開始（4月末時点で17社との面談が完了）。

### (4) 高齢者向けエアロビック（ダイヤビック）の普及

ダイヤビック活動開始25周年を記念し、11月28日に記念式典を開催。記念事業として、新たなBGM集『ダイヤビック・サウンド2025』を制作。

ダイヤビック・インストラクター養成講座を開催。9～10月の4回の講習を経て、10月のインストラクター認定試験に6名が合格。2026年3月末現在、インストラクター認定者は累計313名。そのうち約110名が東京都、神奈川県、埼玉県等の約100拠点で一般高齢者を対象にした普及教室を運営中。

JA湘南より「令和7年度JA助け合い健康づくり講座」として「ダイヤビック体験教室」の開催依頼があり、インストラクターの派遣等を実施した。

## 2. 情報発信

### (1) 社会老年学文献データベース（DiaL）による情報提供

財団設立10周年記念事業として、2002年より公開していた社会老年学文献データベース（DiaL）を2025年12月末日で公開を終了した。公開終了時の文献の登録数は、15,087件、通算アクセス数（集計可能な2008年5月から2025年12月までの期間）は319,685件。

## (2) 機関誌『Dia News』の発行

広報誌『Dia News』を6月（通巻116号）、10月（同117号）、2月（同118号）に発行し、超高齢社会に係る諸問題や話題、本財団の活動状況等を広く情報発信した。

## (3) 年度報告書『Dia レポート』の発行

2024年度の本財団の研究活動の実績、財務およびガバナンスの概況等をまとめた報告書『Dia レポート2024』を作成。7月に賛助会員企業ならびに財団関係者に送付し、ホームページにも掲載した。なお、2025年度の報告書は2026年7月を目途に公表する予定。

## (4) ホームページによる情報発信

年間を通して都度ホームページを更新し、本財団の研究活動、運営管理の状況、シンポジウムの開催概要等の最新情報を発信した。

## 【収益事業】

調査研究を通じて得られた知見、技術等を活用して行う受託事業等

### (1) 調査研究・事業支援受託

#### 1) 全国シルバー人材センター事業協会 「認知機能が低下した会員の就業等に関する調査研究事業」の受託（2025年度）

シルバー人材センターでは、プレフレイルやフレイルの状態就業を継続している会員も多く、幅広い健康水準に対応した就業機会を提供している可能性がある。本研究事業では、2022-2024年の全国調査データを活用して【認知機能が低下した会員の実態（該当割合・就業状況・疲労感等）】および【2年間の認知機能の変化】を明らかにして、認知機能が低下した会員への就業支援に資する情報を明らかにする。

2025年度は、会員1,426人を分析対象として、「基本チェックリスト」に基づく認知機能低下リスク該当者の割合を明らかにした上で、就業日数には差がないこと、対人コミュニケーションを要する仕事に従事する人が少ないこと、仕事に対して高い愛着を持っていること、2年後も多くの人が同一の仕事継続している事等を明らかにして、研究報告書にまとめた。

## 【その他事業】

賛助会員関連団体等が行う高齢者による社会貢献活動に対する協力および支援

賛助会員企業退職者の自主活動グループ等6団体が行っている以下の社会貢献活動に総額33万円の助成を行った。

- 1) 学童を対象とした体験型課外授業（1団体）
- 2) 高齢者施設への慰問活動（3団体）
- 3) 保育園・幼稚園児との世代間交流活動（1団体）
- 4) 知的障がい者へのダイヤビック指導（1団体）

## < 管理部門 >

### 財団の運営

#### 1. 会議の開催

##### (1) 理事会・評議員会

1) 2025年5月22日

###### ・第1回定時理事会

|      |  |
|------|--|
| 開催場所 | ダイヤ高齢社会研究財団会議室（オンライン併用）  |
| 決議事項 | 定時評議員会の日および場所ならびに目的である事項等の件、2024年度事業報告、計算書類（貸借対照表および正味財産増減計算書）および附属明細書ならびに財産目録承認の件 |
| 報告事項 | 監事候補者の件、職務遂行状況報告の件   |
| 出席等  | 決議に必要な出席理事の数8名、出席10名、欠席4名、監事出席2名   |

2) 2025年6月12日

###### ・定時評議員会

|      |  |
|------|--|
| 開催場所 | ダイヤ高齢社会研究財団会議室（オンライン併用）  |
| 決議事項 | 2024年度計算書類（貸借対照表および正味財産増減計算書）および附属明細書ならびに財産目録承認の件、評議員選任の件、監事選任の件 |
| 報告事項 | 2024年度事業報告の件   |
| 出席等  | 決議に必要な出席評議員の数8名、出席8名、欠席6名、理事出席者4名、監事出席2名                         |

3) 2026年3月5日

###### ・第2回定時理事会

|      |   |
|------|---|
| 開催場所 | AP 東京八重洲会議室（オンライン併用）                                    |
| 決議事項 | 2025年度第2回評議員会の日時および場所ならびに目的である事項等の件、2026年度事業計画および収支予算の件 |
| 報告事項 | 職務遂行状況の件、基本財産等の管理運用状況の件                                 |
| 出席等  | 決議に必要な出席理事の数8名、出席9名、欠席5名、監事出席1名                         |

4) 2026年3月5日

・第2回評議員会

開催場所 AP 東京八重洲会議室（オンライン併用）  
決議事項 2026年度事業計画および収支予算の件  
報告事項 職務遂行状況の件、基本財産等の管理運用状況の件  
出席等 決議に必要な出席評議員の数8名、出席12名、欠席2名、理事出席者4名、監事出席1名

(2) 倫理審査委員会

第1回

倫理審査委員会規程第7条に基づく書面審査による審議を2025年6月25日から開始し、委員からの指摘を受けて修正を加えた申請書類について、委員全員の合意を得て、2025年7月9日付で以下の1件が承認された。

- 1) 住環境アクセシビリティ評価指標の実施可能性の検証

第2回

倫理審査委員会規程第8条第1項第3号に該当するとの委員長の判断に基づき迅速審査を適用し、予備審査を実施した結果に異議申し立てがなく、2025年7月31日付で以下の1件が承認された。

- 1) 住環境アクセシビリティ評価指標の実施可能性の検証（研究等の計画変更）

第3回

倫理審査委員会規程第8条第1項第2号に該当するとの委員長の判断に基づき迅速審査を適用し、予備審査を実施した結果に異議申し立てがなく、2025年8月25日付で以下の1件が承認された。

- 1) 高齢者福祉施設職員の防災・減災意識の向上に関する共同研究事業（研究等の計画変更）

第4回

① 倫理審査委員会規程第8条第1項第3号に該当するとの委員長の判断に基づき迅速審査を適用し、予備審査を実施した結果に異議申し立てがなく、2026年2月16日付で以下の1件が承認された。

- 1) シルバー人材センターの就業における事故に関する研究事業（研究等の計画変更）

- ② 倫理審査委員会規程第 8 条第 1 項第 3 号に該当するとの委員長の判断に基づき迅速審査を適用し、予備審査を実施した結果に異議申し立てがなく、2026 年 2 月 16 日付で以下の 1 件が承認された。
- 1) 介護 QI によるケアサービスの質の評価研究」(研究等の計画変更)
- ③ 倫理審査委員会規程第 8 条第 1 項第 2 号および第 3 号に該当するとの委員長の判断に基づき迅速審査を適用し、予備審査を実施した結果に異議申し立てがなく、2026 年 2 月 16 日付で以下の 1 件が承認された。
- 1) 高齢者福祉施設職員の防災・減災意識の向上に関する共同研究事業 (研究等の計画変更)
- ④ 倫理審査委員会規程第 8 条第 1 項第 3 号に該当するとの委員長の判断に基づき迅速審査を適用し、予備審査を実施した結果に異議申し立てがなく、2026 年 2 月 16 日付で以下の 1 件が承認された。
- 1) 仕事と介護の両立に関する意識と実態 (研究等の計画変更)
- ⑤ 倫理審査委員会規程第 7 条に基づく書面審査による審議を 2026 年 1 月 30 日から開始し、委員からの指摘を受けて修正を加えた申請書類について、委員全員の合意を得て、2026 年 2 月 16 日付で以下の 1 件が承認された。
- 1) 仕事と介護の両立支援に関する研究
- ⑥ 倫理審査委員会規程第 8 条第 1 項第 3 号に該当するとの委員長の判断に基づき迅速審査を適用し、予備審査を実施した結果に異議申し立てがなく、2026 年 2 月 16 日付で以下の 1 件が承認された。
- 1) 生きがい就業の健康維持効果を検証する縦断研究 (研究等の計画変更)

## 2. 財団の組織

### 【評議員】(2026年4月1日現在)

(敬称略)

| 氏名     | 所属                                |
|--------|-----------------------------------|
| 秋山 弘子  | 東京大学 名誉教授                         |
| 池上 直己  | 慶應義塾大学 名誉教授                       |
| 石井 信芳  | 元厚生労働省関東信越厚生局長                    |
| 大澤 清   | 三菱マテリアル株式会社 グローバル人事部 部長           |
| 小野木 純  | 三菱電機株式会社 人事総務部長                   |
| 小林 純一  | A G C株式会社 常務執行役員 人事部長             |
| 鈴木 健太郎 | 三菱地所株式会社 総務部長                     |
| 坪井 純子  | キリンホールディングス株式会社 取締役副社長            |
| 野間 弘之  | 日本郵船株式会社 執行役員人事グループ長              |
| 花俣 ふみ代 | 公益社団法人認知症の人と家族の会<br>副代表理事 埼玉県支部代表 |
| 藤原 佳典  | 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所<br>副所長   |
| 丸井 英二  | 人間総合科学大学人間科学部 教授                  |
| 向 雅彦   | 東京海上日動火災保険株式会社 総務部長               |
| 吉池 由美子 | 株式会社三菱総合研究所 執行役員 人事部長             |

【理事・監事】(2026年4月1日現在)

1. 理事

(敬称略)

| 氏名                   | 所属                           |
|----------------------|------------------------------|
| 会長<br>松尾 憲治          | 明治安田生命保険相互会社 名誉顧問            |
| 理事長(代表理事)<br>石塚 博昭   | 三菱ケミカル株式会社 シニアエグゼクティブコンサルタント |
| 常務理事(業務執行理事)<br>高阪 肇 | 公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団            |
| 事務局長<br>渡辺 朗         | 公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団            |
| 伊藤 宏一                | 千葉商科大学教授                     |
| 江連 雅紀                | 株式会社三菱UFJ銀行 執行役員人事部長         |
| 栄畑 潤                 | 一般社団法人シルバーサービス振興会 理事長        |
| 清水 肇子                | 公益財団法人さわやか福祉財団 理事長           |
| 高井 康行                | 一般財団法人長寿社会開発センター 理事長         |
| 田中 滋                 | 埼玉県立大学 理事長                   |
| 福井 小紀子               | 東京科学大学大学院 保健衛生学研究科 教授        |
| 藤村 武宏                | 三菱商事株式会社 執行役員総務部長            |
| 山本 則子                | 公益社団法人日本看護協会 副会長             |
| 渡邊 吉倫                | 三菱重工業株式会社 総務部次長              |

2. 監事

(敬称略)

| 氏名    | 所属                      |
|-------|-------------------------|
| 金子 茂夫 | 金子会計事務所(公認会計士・税理士)      |
| 國行 昌裕 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 取締役常務執行役員 |

**【委員】** (2026年4月1日現在)

**1. 倫理審査委員会 委員**

(敬称略)

| 氏名    | 所属                            |
|-------|-------------------------------|
| 高阪 肇  | 公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団 常務理事        |
| 渡辺 朗  | 公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団 理事事務局長      |
| 森 義博  | 公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団 シニアアドバイザー   |
| 北村 聡子 | 半蔵門総合法律事務所 弁護士                |
| 永松 俊哉 | 山野美容芸術短期大学 教授                 |
| 吉江 悟  | 一般社団法人 Neighborhood Care 代表理事 |

**2. 利益相反マネジメント委員会 委員**

(敬称略)

| 氏名    | 所属                       |
|-------|--------------------------|
| 高阪 肇  | 公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団 常務理事   |
| 渡辺 朗  | 公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団 理事事務局長 |
| 岡本 憲之 | 一般社団法人高齢者活躍支援協議会 理事      |

【財団職員】 (2026年4月1日現在)

(敬称略)

| 所 属          | 氏 名    | 職 位 等                   |
|--------------|--------|-------------------------|
|              | 高阪 肇   | 常務理事 (業務執行理事: 三菱ケミカル出向) |
|              | 渡辺 朗   | 理事事務局長 (明治安田生命派遣)       |
| 研究部          | 石橋 智昭  | 研究部長 主席研究員              |
|              | 佐々木 晶世 | 主任研究員                   |
|              | 土屋 瑠見子 | 主任研究員                   |
|              | 上原 桃美  | 専任研究員                   |
|              | 安 順姫   | 博士研究員                   |
| 企画調査部        | 先灘 信成  | 部長 (明治安田生命派遣)           |
|              | 中村 健   | 次長 (三菱ケミカル出向)           |
|              | 佐藤 博志  | 次長 (三菱ケミカル出向)           |
| プロジェクト<br>統括 | 森 義博   | シニアアドバイザー (明治安田生命派遣)    |
|              | 黒澤 侑子  | プロジェクト・スタッフ             |
| 事務局          | 飯村 元   | 部長 (明治安田生命派遣)           |
|              | 小糸 麻里  | 事務員                     |
|              | 林上 真由美 | 事務員                     |
|              | 中村 美佳  | 事務員                     |

【財団客員研究員】(2026年4月1日現在)

(敬称略)

|       | 氏名                                 | 所属                      |
|-------|------------------------------------|-------------------------|
| 客員研究員 | 芳賀 博                               | 佐久大学大学院 看護学研究科 客員教授     |
|       | 新野 直明                              | 桜美林大学 健康福祉学群 教授         |
|       | 塚本 成美                              | 城西大学 経営学部 教授            |
|       | 渡辺 修一郎                             | 桜美林大学大学院 国際学術研究科 教授     |
|       | 二宮 彩子                              | 城西国際大学 看護学部 教授          |
|       | 高野 龍昭                              | 東洋大学 福祉社会デザイン学部 教授      |
|       | 小野 恵子                              | 青森県立保健大学 健康科学部 准教授      |
|       | 五十嵐 歩                              | 千葉大学大学院 看護学研究院 教授       |
|       | 廣岡 佳代                              | 東京科学大学 教育研究組織 医学部 准教授   |
|       | 森田 彩子                              | 東京科学大学大学院 医歯学総合研究科 准教授  |
|       | 齋藤 京子                              | 淑徳大学 教育学部 准教授           |
|       | 澤岡 詩野                              | 東海大学 健康学部 教授            |
|       | 金田 明子                              | 東京医療学院大学 保健医療学部 教授      |
|       | 中村 正人                              | 特別養護老人ホーム神明園 園長         |
|       | 早尾 弘子                              | 公益社団法人日本看護協会 政策推進部 部長   |
|       | 松田 文子                              | 公益財団法人大原記念労働科学研究所 特別研究員 |
| 森下 久美 | 社会福祉法人東北福祉会 認知症介護研究・研修仙台センター 主任研究員 |                         |

2025年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2026年4月

公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団